

# 自悠新聞

〒980-6101

仙台市青葉区中央1-3-1 アエル1階  
発行所 丸善仙台出版サービスセンター

☎022-264-0151 fax022-264-0112

jk.ishimori@gmail.com 編集長 石森浩一

平成24年（2012）3月 No.85

印刷 東北堂印刷株式会社

## 自費出版

### 『大津波から必死の脱出そして国を想う』

岩沼市 相原 孝志

未曾有の大地震そして大津波に遭遇

〇二東日本大震災は

未曾有の巨大地震であったにもかかわらず、誰も予想しておらず、誰かの手助けがなかった。改めて現代社会は、何時間か何処で起こるか全く予想できない社会である。自然現象か人的要因による事件かは分かりませんが、突然とんでもないことが起こり得るのだと覚悟しておかなければならないということ。九死に一生の体験を書き残す

〇二東日本大震災は

未曾有の大地震でした。大津波に遭遇した。この大震災の生き証人であり、この事態を後世のために何をどのように伝えていくのか、凄くテーマを与えられたと思います。ただ、震災全般にわたる記録は色々発表されていますので、私は自身が大津波に巻き込まれ九死に一生を得

た実体験から、内部から見た震災の様子を、大津波からの必死の脱出劇を、そしてその後経験したり考えたことなどを書き残しておこうと思ったのです。また同時に発生した原子力発電所の事故についても記しておきたいと思いました。とにかく私の一生の中で最初で最後の経験であろうこの大震災は、私に色々なことを考えさせ貴重な経験をさせてくれたのです。これから生き方、このように反映されることとなるのか気になるところです。

〇二東日本大震災は

未曾有の大地震でした。大津波に遭遇した。この大震災の生き証人であり、この事態を後世のために何をどのように伝えていくのか、凄くテーマを与えられたと思います。ただ、震災全般にわたる記録は色々発表されていますので、私は自身が大津波に巻き込まれ九死に一生を得

すし、そもそもわが国は太平洋戦争敗戦この方、わが国が国家であること忘れてしまっているようです。大戦敗戦以降のわが国の足跡を振り返ってみれば、経済大国となつた以外満足できることは残念ながら少ないように感じます。国家としての基本的役割を忘れ、国が目指すべき目標を持たず、政局がらみの内政に右往左往し、老練な外交には程遠いわが国の有様を見るにつけてこのままではならずと思うのです。また、国民も自己の権利の主張に忙しく自立自尊の精神を失い、国を愛することを忘れてしまっているようです。願わくはこの大震災を契機に大戦後の弱虫日本から早々に脱皮し、将来に向かつてワクワク出来る日本の実現を目指したいのです。

〇二東日本大震災は

未曾有の大地震でした。大津波に遭遇した。この大震災の生き証人であり、この事態を後世のために何をどのように伝えていくのか、凄くテーマを与えられたと思います。ただ、震災全般にわたる記録は色々発表されていますので、私は自身が大津波に巻き込まれ九死に一生を得

もつと長生きしたいと思えるわが国の復活を願っているのです。

（相原 孝志 記）

#### 自費出版本紹介

相原孝志著

『大津波から必死の脱出そして国を想う』

丸善仙台出版

サービスセンター刊

一五〇〇円（税込み）



東日本大震災の大津波から必死の脱出を体験し、人生を振り返り書き下ろした一冊。わが国のさらさらな問題を独自の視点で鋭く切りこむ鋭い文章。

#### 〔解説〕

著者の相原さん、〇二東日本大震災の大津波から必死の脱出を果たし、後世のためと、その体験とそこで得た教訓を一気に書き上げた。そしてわが国の将来への不安を払拭し

丸善仙台出版サービスセンター新刊書

このままでは心残りも夥しく、新生日本の新たな息吹と新しい兆しを感じる事が出来るよう、

#### M マルエム春秋

東日本大震災から一年が過ぎた。震災後数ヶ月は自費出版の相談が途絶えた。私自身も東京で地震に見舞われ、約一ヶ月は仙台に帰れなかった。夏が来て少しは私の日常が戻ってきた。それと共に自費出版の依頼もいた

だけのようになつた。その内容が震災以前とは一変した。「励まし」の本が多くを占めた。筆者の辛い入院生活から得た「生きる力」を皆に分けてあげたいと記したメッセー

「敬愛」と励まし合う体験記、震災を切っ掛けに改めて日本の国を考

え、国際的にも弱腰日本の立ち直りを求める提言の書など、復興復活への熱く強く、しかし優しさに満ちた本が作られていた。この筆者たちは、今出来ることは何かを考え、「思いを書き残す」メッセー

「敬愛」と励まし合う体験記、震災を切っ掛けに改めて日本の国を考



「沈黙の海」

菊田 郁朗

「……どの詩も平易に書かれているだけに胸に沁みる。行間から慟哭が聞こえる。読みながら、車中で目がウルウルして困った。……私が車内で泣けて困ったのは、(祈り2―あの日―)という一編である。三月十一日のあの日は、東北地方に雪が降っていた。電気も水も電話回線も遮断された暗闇の中で、人々は烈しい雪にさらされていた。『……夜更けに雪が止むと／青く澄み渡った夜空に／いつもより多くの星が／ささやくように／光った／その日／たくさんの／たくさんの命が／空に昇った』3・11の夜更けは、星がきれいだった、と多くの人が言う。……誰の目にも、いつもより多くの星が見えたのは、《死ぬと星になる》という証かも知れない。……」

も紹介され、仙台を中心に県内、遠くは四国、北陸、関西、関東からも依頼があり、震災遺児への支援金(一冊から三〇〇円を寄金)は五〇万円を超えてきた。かつての勤務地が気になった。仙沼、南三陸町志津川、石巻と八年間沿岸部で過ごし、多くの知人、友人、教え子が被災しました。その惨状に立ちすくみ、呆然として言葉を無くしたのですが、赤いランドセルの中に、一人一人の子供たちの未来や夢、希望、家族の願いや期待がいつぱい入っていたに違いない、そう思いながら書き始め、また、まだ収束の見えない原発への怒りと警鐘を込め、つたない詩四二篇をまとめた。被災者からの手紙も多く寄せられ、「ボランティアの方々に片付けて貰うのはありがたかったが、身を切られるようだった。そんな時『……(がれき)なんてひとつもない／どれもこれも／家族が長い時間をかけて／こつこつと積み上げてきた

／思い出の詰まったものばかり』(がれき)という詩を友達から紹介されました「帰りたいのですが、もう故郷には帰れないでしょう(南相馬市、岩手大槌町)」「友人は義父、義姉、親戚8人を亡くしました(塩釜市)」という涙ながらの手紙に、時間はまだあの日で止まったままであることを改めて痛感しています。『あの日／一本のろうそくをかこんで／夜を明かした／烈しく降る雪の中を／たくさんの命が空に昇った』……」

ありがとう／あなたのなみだ／もう一度／私は生きていこう／この風の向こうに／きつと／あなたが待っているから(この風の向こうに) 河北新報

社 ありがとつこの詩 優秀作品入選 この詩に曲が付く事になりました。

【作曲：箕輪单志 歌唱者：後藤優子】

\*詩集のお問い合わせは 090-4632-7657 菊田 迄 (一部七百元・送料込み)

朗読サロン 虹の街

第6回 〈沈黙の海 ～3・11 あの日を忘れない～〉

- \*日時 平成24年5月6日(日) 14:00~15:50
- \*会場 エルパーク スタジオホール(三越定禅寺通館6階)
- \*会費 一般1,800円(税込み) 当日2,000円  
中高校生1,000円

後援 仙台市教育委員会・(財)仙台市市民文化事業団・TBC 東北放送  
助成 アーツエイド東北

- 講演 藤沢智子氏 (TBC 東北放送アナウンサー)
- 朗読 『詩集 沈黙の海』より  
藤沢智子 菊田郁朗 田中きわ子 渡辺仁子
- 歌唱 萩原里香 ピアノ演奏 掛田瑤子



\*お申し込みは下記へメール、お電話、FAXいずれかをお願いいたします。  
電話 090-4049-4949 FAX022-379-3994 (事務局)  
メール [roudokusalon@yahoo.co.jp](mailto:roudokusalon@yahoo.co.jp)



営業時間  
10:00~21:00

日曜祝日は 20:00 迄

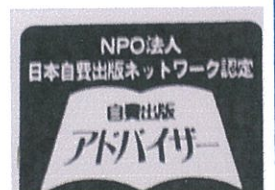
丸善仙台アエル店 丸善の自費出版

あなたの本を創ってみませんか!

丸善は書店としての経験をいかして自費出版本制作のお手伝いをさせていただいております。お気軽にご相談下さい。随時承っております。

☎022-264-0151 携帯 090-5184-0532 (石森)

\*ご希望であれば丸善店頭で販売させていただきます。



認定第0014号  
石森浩一